

理念ハンドブック



社 会 福 祉 法 人
前橋あそか会

INDEX

1.はじめに	・・・ p.3～4
2.理念	・・・ p.5～6
3.基本方針	・・・ p.7～9
4.行動指針	・・・ p.11～14
5.ヴィジョン	・・・ p.15

1.はじめに

(1)理念とは

多くの法人で、理念はただの言葉であり、現場と関係ないというところが多い。理念は唱和するだけのもの、会長室に飾ってあるだけのものという意識を持つ職員も多い。つまり、現場は別だと考えるということであるが、それでは理念の意味がない。

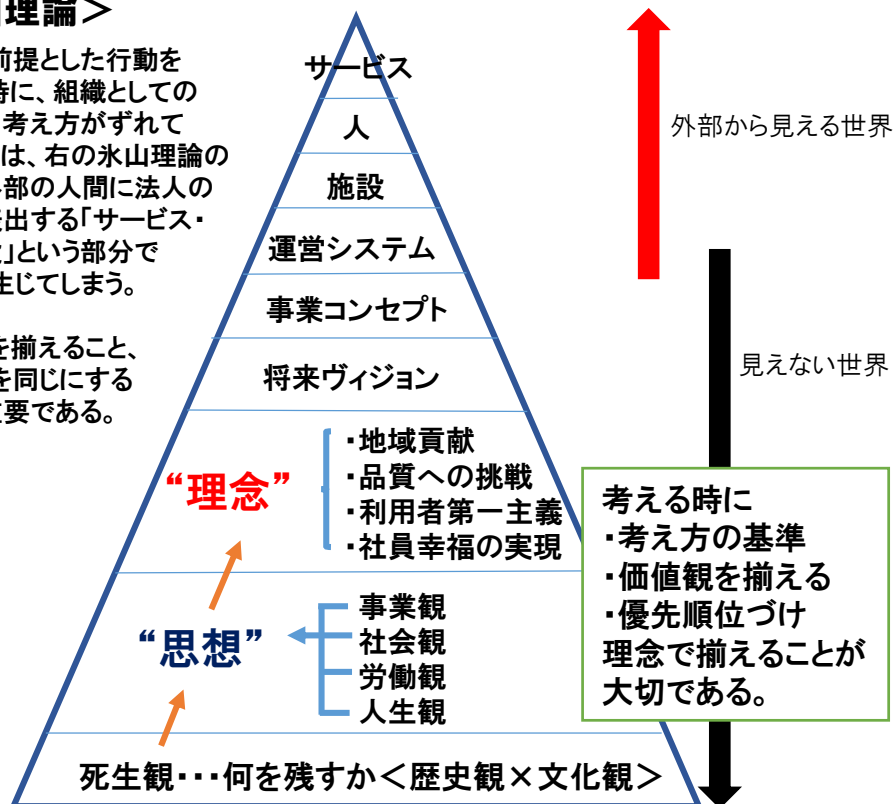
「理念は実際に使うもの」である。

理念は、言えればいいのではなく、理念を実現するための行動ができるかどうかが重要である。理念を実現するために、日々の現場での業務で、行動することが、経営の目的・法人と全職員の一体化を実現することにつながる。

< 氷山理論 >

理念を前提とした行動を考える時に、組織としての価値観・考え方がずれてしまつては、右の氷山理論のように外部の人間に法人のことが表出する「サービス・人・施設」という部分で矛盾が生じてしまう。

考え方を揃えること、価値観を同じにすることが重要である。



(2)理念ハンドブックの使い方・生かし方

ステップ1

理念を理解する。その意味と目的を知る。

理念の言葉の意味と解釈ができる。その理念の背景と意思を知る。
理念で実現する未来は何か、理念で達成することは何かを明確にする。

ステップ2

理念の達成目標、成果を設定する。

理念が現場においてどのようになれば、理念が実践されていると言えるか。それを計測・評価できる目標や、成果項目を設定し、方向性を出す。

ステップ3

理念の達成目標のためのアクションプランを立てる。

理念を実現する為に、アクションプラン、行動の内容を計画していく。
またそれを、タイムスケジュール化していく。

ステップ4

アクションプランの行動化～チェック、効果測定

アクションプラン、行動を実行していく。その遂行に関して、内容と進行のチェックを行い、結果についての効果測定を行う。

ステップ5

アクションプランの検証、修正を行う。

行動した結果について、検証し反省し、修正をしていく。
さらに理念が行動化される計画を立案する。

理念ハンドブックを使用しながら、上記のステップを着実に進めていく。

2.理念

(1)前橋あそか会の理念体系

わたしたちの理念

『あなたと共に素敵な未来を創る』
～寄り添い・育て・支え合う地域の共同体～

わたしたちの基本方針

- 一、お互いに認め合い、支援の刹那を大切にする
- 一、地域になくてはならない理想の福祉実現者になる
- 一、職員の心の充実を図り、幸せを応援できる組織になる

わたしたちの行動指針

- 一、社会人として心身共に常に健康であることに努力します
- 一、前橋あそか会の一員として皆がまとまり、良い仕事をしていきます
- 一、自発自走の精神で丁寧に最後までやり遂げる私たちになります
- 一、虐待は絶対に許しません

わたしたちのヴィジョン

『掲げた目標に全力で立ち向かっていこう』(法人全体・施設単体・個人)
『それぞれが長所を発揮し、利用者・仲間・地域に喜ばれる存在になろう。』

(2) 理念に関する説明

『あなたと共に素敵な未来を創る』

～寄り添い・育て・支え合う地域の共同体～

あなたとは日々働く職員・地域の人々・施設の利用者を指し、前橋あそか会はその「あなた」のことを常に考えている組織です。素敵な未来とは、人それぞれで定義が違いますが、福祉施設として、職員が働く職場として、地域の人々の拠り所として様々な未来を描いていきたいと考えています。‘地域が安心・安全で暮らしていけるものになる(支え合う社会の推進)’、“高齢者の方が心安らかに体健やかに日々を過ごすことができる(心身へ真摯に寄り添う)”、“障害者・子どもたちが前橋あそか会を通して、自己を実現し物心両面で自立していける(正しく育てる)”このような理想を私たちは掲げていきます。この未来を創れるのは私たちだけです。これを念頭に置いて私たちは仕事をし、職員自らの素敵な未来も創っていききたいと考えています。

この言葉が前橋あそか会の理念です。これを使命とし、追求していくことがこの社会の中で前橋あそか会が存在する目的です。理念とは、考え方の軸を明確にし、行動化していくことに意味があります。考え方の軸として、基本方針を定め、理念を現場スタッフが実践的に行動化できるよう、より具体化したものを行動指針として設定します。尚、基本方針は以下の3項目に集約されます。

【前橋あそか会 基本方針】

- 一、お互いに認め合い、支援の刹那を大切にする
- 一、地域になくてはならない理想の福祉実現者になる
- 一、職員の心の充実を図り、幸せを応援できる組織になる

3.基本方針

わたしたちの基本方針①

一、お互いに認め合い、支援の刹那を大切にする

私たちの仕事は対人サービスの極みである「福祉」です。高齢者も障害者も子どもたちとも信頼関係が築けないことには私たちの仕事は前に進んでいくことができません。信頼関係を築く際に私たちが大切にすべきことは、「常に相手のことを考える」ということです。この姿勢がなければ、相手に想いを届けることができないからです。相手のことをとことん考える中で、真の信頼関係構築が可能になります。すべての人が自ら生きる上での不自由、悩み、悲しみや一方で喜び、楽しみを持っています。それをお互いに共有できるようになる瞬間が私たちの仕事では大切です。これは「お互いを認め合う」ということに繋がります。そして、それは日常の仕事の一瞬一瞬(刹那)をどこまで大切にすることができるかで決まってしまうます。相手のことを考え、互いに想いを共有し合う関係には日々の努力、各人の仕事に対する意識が大切になってくるのです。福祉の仕事の本質は、ルーティン的なものではなく、その場で突発的に発生する様々な状況に対応しなければならないというものです。その日常に対応するためにこの基本方針を掲げています。

■大切にすべきキーエッセンス■

- ①常に相手のことを考える(相手本位の精神)
- ②相手の想いに共感し、自分の想いをしっかりと相手に届ける
- ③常なるものなどない(無常こそ常)→日々の一瞬一瞬を大切にする

わたしたちの基本方針②

一、地域になくてはならない 理想の福祉実現者になる

地域の方々が生まれてから、この世を去るまで安全・安心に暮らしていける社会が私たちの目指す福祉社会です。表現を変えると、お互いを敬いながら、必要なところで助け合って、地域にある不安を取り除いていくことが前橋あそか会の未来の存在意義と言えます。しかし、この未来への理想は、私たち自らの施設の中でしっかりとした福祉ができてこそ、その活動は地域に広がっていきます。したがって、その理想に向けて、日々の仕事を見直し、改善していくことがこれからの法人の未来に繋がっていきます。高い理想を掲げたこの基本方針は必ず実現していきたいと考えています。

■大切にすべきキーエッセンス■

- ①地域貢献していくことが私たちの福祉の理想である
- ②地域の生活課題をワンストップで解決していける
- ③高い理想を掲げながらも、目の前の利用者を大切にする

わたしたちの基本方針③

一、職員の心の充実を図り、 幸せを応援できる組織になる

前橋あそか会は、仕事を通して幸せを感じる職員をどんどん増やしていきたいと考えています。私たちの考える幸せとは、人間性が磨かれ、「誰かに喜ばれる自分」を感じる瞬間にあると考えています。この幸せは仕事を通して強く感じるができるものであり、そのような職員が増えていくために労力を費やすことは全く厭いません。組織としてどのような応援ができるのか常に考えて行動していくことを誓います。また、職員が一人前の職員になっていくことに対しても時間を費やして、その活動を重視していきます。そのために何でも相談ができる組織、意思疎通のしっかりとれる組織を私たちは作っていきます。職員一人ひとりとの結びつきを強化し、ともに成長して前橋あそか会の未来を創っていけるようにしていきます。

■大切にすべきキーエッセンス■

- ①前橋あそか会は働く喜びを職員が共有することのできる法人です
- ②幸せ＝学び・成長にあり、「誰かに喜ばれる自分」を感じる瞬間
- ③1人ひとりの結びつきを強化し、意思疎通の取れる関係を築く

<MEMO>

Handwriting practice lines consisting of 15 horizontal dotted lines.

4.行動指針

わたしたちの行動指針①

一、社会人として心身共に 常に健康であることに努力します

■社会人として体調管理は自らが責任をもって行う

■常に清い心(前向き・素直な姿勢)で仕事に臨む

わたしたちの仕事は人と人とが結びついていく仕事です。目の前の支援者が体調不良で暗い顔をしている、良い福祉サービスができないという状況は絶対に避けなければなりません。また、体調だけでなく、心にあることが言葉として、行動として現れてしまうのが私たちの仕事であるため、常に清い心で仕事と向き合います。チャレンジ精神が旺盛で、心の中がフラットな状態、相手の話すことにしっかりと耳を傾け、受容することができる状態が社会人としてのベースであると考えています。

わたしたちの行動指針②

一、前橋あそか会の一員として 皆でまとまっています

- 施設単体のみならず、施設間・職員間の連携も高める
- 理念の言葉を大切にし、全員の考え方・行動の拠り所にしていく
- 1人ひとりが自らの行動を振り返り、理念に沿って見直していく

皆がまとまった際に起きるエネルギーは相当なものです。逆に言い換えれば、皆がまとまることができれば、組織としてどんな課題や問題にも挫けることなく、前に進んでいけるものです。人それぞれ育ってきた環境が違うため、ものの考え方や価値観はバラバラです。しかし、私たちは社会に貢献していく前橋あそか会として、法人の基本的な考え方・価値観のベクトル(方向性)に職員が足並みを合わせて、最終的にまとまっていくことを大切にしていきます。そのために、私たちは日常の支援からもこの理念の考え方に自らの行動が沿っているのかを振り返り、見直していくことを恐れず実行していきます。

わたしたちの行動指針③

一、自発自走の精神で丁寧に 最後までやり遂げる集団になります

- 悪いと思ったことを即やめ、良いと思ったことは即実行する
- やると決めたことは最後まであきらめずやり遂げる
- 常に相手のことを考えた丁寧な仕事(安全・安心)をする
- 自ら考え、自ら行動するサイクルを自らで創る

人が宝となって組織が成長し、すべての人が幸せになっていくためにも、職員が自ら考え自ら行動することは必要不可欠です。なぜなら、自ら行動し現実を変えなければ理想は夢に終わってしまうからです。1人の職員として、この自発自走の精神を大切にし、やると決めたことを自分に言い訳せず、やりきることができる職員にわたしたちはなっていきます。また、組織がより良くなるためには、「悪いことを即やめる、良いことを即実行する」という風土が必要です。この考え方を基本軸に日々の仕事にも取り組んでいきます。

わたしたちの行動指針④

一、虐待は絶対に許しません

■虐待行為を施設から撲滅する

■自らの行う支援に関して、常に振り返り検証して改善をする

多くの福祉施設で問題となっている虐待という問題に前橋あそか会は全力で取り組み、施設内からそのような行為を一切排除していくことを誓います。個人の尊厳を守るということは支援者として当たり前のことであり、全職員が守れている状態を目指していきます。そのためには、常に自らの行った支援を振り返り、検証して、必要があれば正していく習慣をつけていくことが大切です。この習慣をつけていくことを行動指針として定めます。

5.ヴィジョン

『掲げた目標に全力で立ち向かっていこう』
(法人全体・施設単体・個人)
『それぞれが長所を発揮し、利用者・
仲間・地域に喜ばれる存在になろう。』

ヴィジョンとは“理想像”と言い換えることができます。この理念を基に法人全体または施設単体で事業目標が具体化されていきます。わたしたちはその目標実現に向けて、全力でそれを追いかけるそんな組織になりたいと思います。全力で追いかけるためには、目標が個人レベルまで落とし込まれることです。各施設のリーダーが主体的にその目標を職員の皆様と共有し、個人レベルに落としこんでいく時間を大切にしていきます。また、理念は皆が同じ根っこになるための取り組みですが、その根っこから出てくる芽は、人それぞれ異なっても良いと考えています。つまり、同じ考え方・価値観に集まることができれば、その表現方法は個人の力を尊重したいと考えております。どんどん自らの得意なこと、領域で仲間・利用者に貢献していくわたしたちになっていきたいと考えています。

<MEMO>

Handwriting practice lines consisting of 15 horizontal dotted lines.

<MEMO>

Handwriting practice lines consisting of 15 horizontal dotted lines.

<MEMO>

Handwriting practice lines consisting of 15 horizontal dotted lines.